

欠陥バランス戦略 (*Defective Balance Strategy*)
スペイン語とルーマニア語において
La estrategia de equilibrio defectivo (defective balance strategy)
en español y rumano*)

石岡 精三
Seizo ISHIOKA

0. はじめに

Chomsky (2000, 2001) が提唱するフェイズ不可侵性条件 (Phase Impenetrability Condition, PIC) は, Wh 島制約に抵触する英語用例 (1) とスペイン語用例 (2) のすべてを不適格と予測する。本稿の第 1 節において述べるように, PIC は Wh 要素が Wh 島内部から移動する派生を生成不能とする効果をもつ。しかしながら, (2a) と (3a) のスペイン語の用例は, ある一定の条件下で Wh 要素が Wh 島内部から移動可能であることを示している。

- (1) a.*What did you wonder who_i t_j had borrowed t_j?
b.*Who_i did you wonder what_j t_j had borrowed t_j?
- (2) a.¿Quién_i no sabes [qué película]_j dirigió t_j en el cincuenta y uno? (Torrego 1984: (68))
‘Who do you know what movie directed in ‘51’?’
b.*¿[Qué película]_j no recuerdas quién_i dirigió t_j en el cincuenta y uno? (Torrego 1984: (69))
‘What movie don’t you remember who directed in ‘51’?’
- (3) a.¿[A quién]_i dices que no te acuerdas qué_j le_i has dicho t_j t_i? (Torrego 1984: (54a))
‘To whom do you say that you don’t remember what you have said?’
b.*¿Qué_j dices que no te acuerdas [a quién]_i le_i has dicho t_j t_i? (Torrego 1984: (54b))
‘What do you say that you don’t remember to whom you have said?’

Wh 島制約をフェイズ不可侵性条件 (PIC) に還元することには問題があると思われる。本稿では, Wh 島内部からの Wh 要素移動を可能にするプロセスを想定する (このプロセスを欠陥バランス戦略 (*Defective Balance Strategy*) と呼ぶ)。このプロセスがスペイン語の Wh 島事象だけでなく, ルーマニア語の多重疑問文にも適用可能であることを示す。本稿は, 以下のように構成される。第 1 節では, Müller (2004) が提唱する PIC と句バランス (*Phrase Balance*) の概略とその問題点を指摘する。第 2 節では, この句バランスに立脚する新たな論法を提示し, これにより, 上の (2) と (3) などのスペイン語の用例が説明されることを示す。第 3 節では, スペイン語の Wh 島制約を説明する論法が基本的にルーマニア語の多重疑問文を説明可能であることを示す。第 4 節は結びを構成し, 本稿で提案する論法に対して問題を惹起すると思われる用例に検討を加え, これに対する一つの打開策を提示する。

1. Müller (2004) の PIC と句バランス (*Phrase Balance*)

Chomsky (2000) によれば, 派生は C あるいは v の一方を含む語彙配列によって決定される構造であるフェイズを単位として進行し, フェイズ毎に演算処理が適用される。フェイズが下線で表記された

(4)において、フェイズが HP から直接上位の ZP に移行すると、演算の適用が完了したとみなされる下位のフェイズ (HP) はその一部分を除いて演算の適用に関して見えなくなる (これにより、演算の負担が軽減される)。(5)にあるように、演算の適用に関して依然として見えるこの一部分として、主要部 (H) と先端部 (Edge) を想定している (先端部として Spec(H) 位置と HP に付加した位置を想定する (Chomsky 2001: p.13))。つまり、ZP フェイズにおいて適切に演算処理を受けるためには、YP 内の最大投射は H の先端部へ移動していなくてはならないのである。

(4) [_{ZP} ... Z [_{HP} ... H YP]

(5) Phase Impenetrability Condition (Chomsky 2000: p.108)

In phase α with head H, the domain of H is not accessible to operations outside α ,
only H and its edge are accessible to such operations.

Chomsky (2000, 2001) の PIC では、最小連結条件 (Minimal Link Condition, MLC) が並行して採用される。PIC と MLC の同時採用は、冗長的な側面をもつ。なぜなら、MLC による多くの効果が PIC によってもたらされるからである。PIC の下でその適用範囲が狭められる MLC の全廃を目指し、すべての XP がフェイズを構成すると考えるのが Müller (2004) による PIC である。この PIC に関連する概念の定義体系は以下の通りである。

(6) Phrase Impenetrability Condition (Müller 2004: (12)):

The domain of a head X of *a phrase XP* is not accessible to operations outside XP;
only X and its edge are accessible to such operations.

(7) Feature Condition (FC) (Müller 2004: (9)):

An (uninterpretable) [*F*] feature on X requires movement of an item marked [F] to the edge of X

(8) Last Resort (LR) (Müller 2004: (10)): Movement requires matching [F] and [*F*] at an edge.

移動の引き金となる探査素性 (Probe) である解釈不可能な素性 [*F*] が存在すると仮定する。[*F*] がその引き金となる移動に対して目標要素 (Goal) を構成するのが素性 [F] である。素性 [F] をもつ要素は、素性 [*F*] を付与されたゼロ範疇の先端部へ移動する (FC)。(すべての) 移動は、先端部での [F] と [*F*] との一致によって駆動される (LR)。¹⁾

Müller (2004) の PIC では、すべての句 (XP) がフェイズを構成する。つまり、移動する Wh 要素はその移動経路上にあるすべての句 (XP) の先端部を経由しなければならない。Wh 要素が [-wh] CP 内部から長距離移動する派生 (9a) において、Wh 要素が *embd.Spec(C)* の位置を経由する根拠は何か。(9b) に対応する構造 (9c) の vP フェイズにおいては、Wh 要素 (*to whom*) を v の先端部へと移動させる素性が存在しないように思われる (v は V の目的語 NP (*the book*) と一致していて、これ以上 Wh 要素 (*to whom*) を引き寄せることはないと思われる)。これに対して、Chomsky (2000: p.109) は、例えば (9c) の v に随意的に EPP 素性が付与されると仮定する。明らかに、この前提は、派生の収束を可能にするためだけのものである。先端部位置への移動を可能にするために想定されたこの随意的

EPP 素性の付与がもたらす効果が、何らかのより一般的な条件から導出されないであろうか。

- (9) a. What_i do you think [_{CP} t_i] he bought t_i?
 b. To whom did John read the book?
 c. [_{VP} to whom [_{VP} John v [_{VP} read the book t]]]

その方法として、Müller (2004) は、句バランスの概念を導入している。これは、あらゆる素性 [*F*] に関して、すべての句 (XP) に対してバランス状態を要求するものである。

(10) Phrase Balance (Müller 2004: (14)):

Every XP has to be balanced: For every feature [*F*] in the numeration there must be a

(11) Potential Availability (Müller 2004: (15)):

A feature [F] is potentially available if (i) or (ii) holds:

(i) [F] is on X or edge X of the present root of the derivation.

(ii) [F] is in the **workspace** of the derivation.

派生 D のワークスペース (Workspace) は概略、語彙列挙 (Numeration, N) の中で派生 D の段階でまだ利用されていないものを指す。句バランスにより、(9a) のような単一の Wh 要素が関与する派生における移動では、移動要素がその始発点と最終着地点との間にあるすべての句 (XP) の先端部を経由することになる。単一の Wh 要素が関与する派生では、当然のことながらそのワークスペース内に素性 [wh] をもつ他の Wh 要素がない。よって、当該 Wh 要素は、当該要素の生成位置を含む最小のフェイズの先端部へ移動する必要がある。この移動は、素性の一致 (Feature Matching) によるものでない (この点で、この移動は最終手段 (LR) に抵触する)。しかしながら、それが違反不可能である制約 (FC, PIC と句バランス等) を満たす唯一の派生方法である場合に限り、当該派生における LR 違反が許容されると想定される (この場合に限り、素性の一致が関与しない移動が可能となる)。これにより、(9a-b) が共に PIC を満足することになる。(11-ii) の定義から、ワークスペース内に素性[wh] が存在する派生では、この LR に違反する移動は許容されないことになる (句バランスを満たす他の派生が存在する)。同時に、この派生は PIC によって排除され、不適格と予測される。このことは、以下の優位条件 (Superiority Condition) が関与する用例によって示される。

(12) a. (I wonder) who_i t_i bought what_j (Müller 2004: (17a))

b. *(I wonder) what_j who_i bought t_i (Müller 2004: (17b))

(13) (Müller 2004: (19a-d))

a. [_{VP} bought_t what_t] → Workspace: {C_[*wh*], who_{0[wh]}, T_[*D*], v}

b. [_{VP} who_i v+bought_t [_{VP} t_i what_t]] → Workspace: {C_[*wh*], T_[*D*]}

c. [_{TP} who_i T [_{VP} t_i v+bought_t [_{VP} t_i what_t]]] → Workspace: {C_[*wh*]}

d. [_{CP} who_i C [_{TP} t_i [_{VP} t_i v+bought_t [_{VP} t_i what_t]]]] → Workspace: {ϕ}

(12) の派生構造 (13a) からわかるように、VP はバランスがとれている。それは、そのワークスペース

ース内に素性 [wh] (つまり, Wh 要素 (*who*)) が存在するためである。よって, Wh 要素 (*what*) が V の先端部へ移動することはない。つまり, 当該 Wh 要素が VP 外部へ移動することはない (PIC)。Wh 要素 (*who*) が Spec(C) へ移動する (13a) のみが生成されることになる。

Müller (2004) の PIC では, (1) から (3) の用例がすべて不適格と予測される。関係する Wh 要素が異なるフェイズ内に生成される派生においては, より上位の Wh 要素の素性がワークスペース内にあるため, 下位の Wh 要素がそのフェイズ外へ移動することは許されない (より上位のフェイズ内に生成される Wh 要素が *embd.Spec(C)* へ移動する)。関係する Wh 要素が共に同じフェイズ内に生成される派生においては, 一方の Wh 要素のみがその先端部へ移動可能である (この Wh 要素のみがこのフェイズの外へ出て, *embd.Spec(C)* へ移動する)。この何れの派生においても, *embd.Spec(C)* 位置に痕跡が生成される。これらの派生は, その Spec 位置に顕在的な Wh 要素が生起する CP を要求するという matrix V の選択素性を満たさない。これにより, (1) から (3) の用例はすべて不適格と予測される。明らかに, この予測は事実に合致しない。

2. 欠陥バランス戦略 (Defective Balance Strategy, DBS)

Müller (2004) は, 談話に連結された Wh 要素 (D-Linked Wh 要素) が生起する用例 (14a) と (14b) の相違を, D-Linked Wh 要素が随意的にその素性 [wh] を欠くと仮定することにより説明する。(14b) において, Spec(v) に生成される主語 D-Linked Wh 要素 (*which people*) の素性 [wh] が欠落する。これにより, VP フェイズにおいて, Wh 要素 (*what*) はその先端部へ移動可能となる (この派生段階のワークスペースには素性 [wh] が存在しない)。当該 Wh 要素は, 順次 vP を含むすべてのフェイズの先端部を経由して Spec(C) まで移動する。これにより, (14b) は生成されることになる ((14a) 中の主語要素が D-Linked Wh 要素でないため, 当該用例は, 上の (12b) と同様不適格と予測される)。

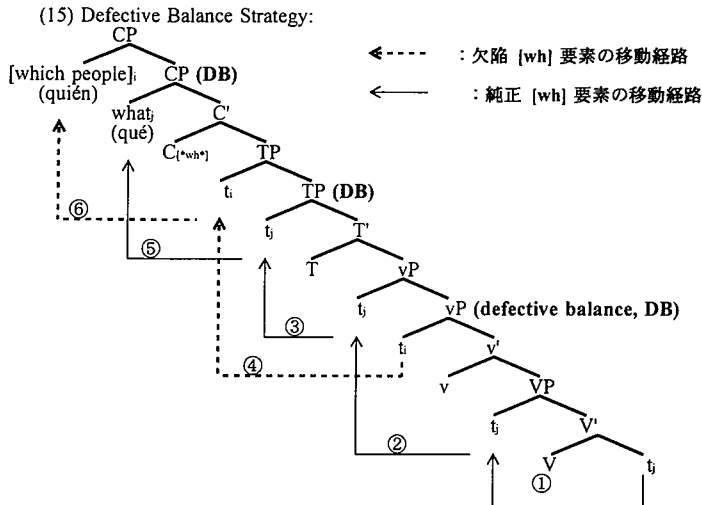
(14) a. *I know [which books]_i who_j read t_j (Müller 2004: (46a))

b. I know what_i [which people] read t_j (Müller 2004: (46b))

c. *I know [which people] what read

ここで, 欠陥バランス戦略 (Defective Balance Strategy, DBS) を仮定する。(14b) における D-Linked Wh 要素 (*which people*) が, ワークスペース内における素性 [wh] を構成しないという点で, 欠陥 [wh] 要素 (Defective [wh] Element) として機能すると考える (これにより, (14b) において下位のフェイズ内部に生成される Wh 要素 (*what*) の上昇移動が可能となる)。これと連動して, 欠陥 [wh] 要素を含むフェイズが欠陥バランス (Defective Balance, DB) と指定されると考える。更にこの DB は, 素性 [*wh*] を付与された最寄りの C の最大投射フェイズに到達するまで順次上位のフェイズに上昇浸透すると想定する (上昇浸透したフェイズ内部に生成された Wh 要素は欠陥 [wh] として機能する。欠陥 [wh] 要素として機能することのない通常の Wh 要素を純正 Wh 要素と呼ぶ)。上昇浸透によって DB と指定されたフェイズのバランスは, 純正 [wh] 素性の Wh 要素が当該フェイズの先端部へ移動するこ

とに加えて、欠陥 [wh] 素性をもつ Wh 要素が当該フェイズの先端部への移動によって初めて確保されると想定する。具体的に、(14b) に対応する (15) の派生構造で考える。2)



VP フェイズにおいて、目的語 Wh 要素 (*what*) は、V の先端部 (Spec(V)) へ移動する (①)。vP フェイズにおいて、この Wh 要素 (*what*) は、v の先端部へ移動する (これにより、vP のバランスが確保される)(②)。TP フェイズに入って、最初に純正 [wh] 要素をもつ Wh 要素 (*what*) が T の先端部へ移動する (③)。次いで、欠陥 [wh] 素性もつ Wh 要素 (*which people*) が T の先端部へ移動する (TP のバランスが確保される)(④)。同様に、CP フェイズにおいて、最初に Wh 要素 (*what*) が C の先端部 (Spec(C)) へ移動する (⑤)。次いで、Wh 要素 (*which people*) が C の先端部へ移動する (CP のバランスが確保される)(⑥)。しかしながら、この派生様式によって生成されるのは (14b) ではなく、不適格と判断される (14c) の多重疑問文である。この問題は、欠陥 [wh] 素性をもつ要素がより上位にあるフェイズのバランス確保のために形成される連鎖 (④+⑥) の元位置 (in-situ) で発音されると仮定することにより打開されると思われる ([+Finitive] CP 内において、主語 Wh 要素の元位置として、主格 (Nominative) が照合を受ける Spec(T) を仮定する。目的語 Wh 要素の元位置として、その生成位置を想定する)。これにより、(14b) が生成されることになる ((14a) では、DBS が適用されない)。

(16b) の用例によって示されるように、スペイン語では、優位条件が適用されないように見える。仮に、スペイン語の Non-D-Linked Wh 要素にも欠陥 [wh] 素性が付与可能と考えてみよう。スペイン語において、DBS が適用された場合の主語要素と目的語要素の始発点として、それぞれの生成位置が指定される。定動詞は、T 位置に生成される。欠陥 [wh] 要素の発音位置として、その生成位置が指定される (後述するように、スペイン語の Wh 島内部からの Wh 要素移動の事例においても、Non-D-Linked Wh 要素が欠陥 [wh] 要素として機能すると考える)。これにより、(16b) の適格性が説明可能となる。対応する英語用例 (14b) と異なるのは、欠陥 [wh] 要素として機能する主語 Wh 要素

(*quién* 'who') がその生成位置 (Spec(v)) で発音される点である ((14b) の主語 Wh 要素 (*which people*) が Spec(T) 位置で発音される)。 (16a) では PIC が適用され、より上位のフェイズ内部に生成された主語 Wh 要素 (*quién*) が embd.C の先端部へ移動する。

(16) (Jaeggli 1982: p.156, (4.105d); (4.105-c))

- a. Juan sabe *quién* dijo *qué* 'John knows who said what.'
 b. Juan sabe *qué* dijo *quién* 'John knows what who said'

(14b) と (16a-b) の派生を説明すると思われる論法によって、(2) と (3) のスペイン語用例の相違が適格に処理される。欠陥 [wh] 素性が、より上位に生成された (つまり、始発点がより上位に指定された) [±D-Linked] Wh 要素に付与可能と考える。主語 Wh 要素 (*quién* 'who') と直接目的語 Wh 要素 (*qué película* 'what movie') が生起する (2) の用例について考える。主語 Wh 要素が欠陥 [wh] 要素となるため、(17a) の embd.CP 構造が生成される。CP フェイズの先端部にある Wh 要素の中でより上位にある要素 (この場合、欠陥 [wh] 要素として機能する主語 Wh 要素 (*quién*)) が matrix C の素性 [*wh*] を照合・削除すると考える (この照合・削除のため、主語 Wh 要素 (*quién*) は、embd.Spec(C) で発音される。matrix C に素性 [*wh*] が付与されない派生においては、欠陥 [wh] 要素として機能する主語 Wh 要素 (*quién*) は元位置で発音される)。 embd.Spec(C) 位置に顕在的な Wh 要素 (*qué película* 'what movie') が生起するため、matrix V が [+wh] CP を要求するという選択素性も満たされる。これにより、(2a) の適格性が説明可能となる ((2b) は生成不能となる)。

(17) a. [_{CP} *quién*;_i [_{CP} [*qué película*]_j [_{TP} *dirigió* . . . t_j en el cincuenta y uno]]]

b. [_{CP} [_i *a quién*]_j [_{CP} [*qué*]_k [_{TP} *le has dicho* t_k]]]

直接目的語 (DO) と間接目的語 (IO) が共起する (3) のスペイン語の用例は、問題を惹起するようと思われる。それは、DO と IO が共に VP 内部に生成されると考えられるためである。つまり、IO と DO の一方のみが、VP の先端部に移動するだけでよい (これにより、VP のバランスが確保される)。欠陥 [wh] 素性は、より上位のフェイズ内部にその始発点をもつ Wh 要素に付与される。同一のフェイズ内部にその始発点が指定される Wh 要素に対して欠陥バランス戦略 (DBS) が適用されることはない。これにより、以下の Jaeggli (1982) が挙げる用例 (18a) と (18b) の非文性が説明される。

(18) (Jaeggli 1982: p.170, (4.151b); (4.151a))

- a. *¿[A *quién*]_i no sabías *qué*_j *le*_k *regalaron* t_j t_k? 'To whom don't you know what they had given?'
 b. *El único *encargo* *que*_i no sabías [_i *a quién*]_j *iban* a dar t_j t_k *cayó* justo en tus manos
 'The only task which you didn't know to whom they would give wound up right in your hands'

それでは、DO と IO が共起する (3a) と (3b) の相違はどのように説明されるのであろうか。Torrego (1984) が属す話者グループにおいて、IO Wh 要素 (*a quién* 'to whom') は、DO Wh 要素 (*qué* 'what') が形成する Wh 島内部から移動する派生が可能である。これは、IO Wh 要素の始発点として、v よりも上位に生起する Spec(Agr-IO) が指定されると考えることにより説明可能となる (通例、IO 要素は、

対応する IO 再述接語 (*le, les*) を随伴する)。これに対応する CP 構造である (17b) によって示されるように、IO Wh 要素 (*a quién*) が長距離移動する派生が適格と予測される (Jaeggli (1982) が属する話者グループでは、Spec(Agr-IO) が IO Wh 要素の始発点と指定されることはないと考えられる)。IO Wh 要素と主語 Wh 要素が生起する用例においては、IO Wh 要素が長距離移動する用例が適格と予測される。このことは、(19a) の文法性によって例証される。主語 Wh 要素と対応する DO 再述接語 (例えば、*lo*) を随伴する D-linked DO Wh (*qué libro* 'which book') が共起する用例において、DO Wh 要素が長距離移動する派生が適格と予測される (DO 再述接語を随伴する DO Wh 要素の始発点として、*v* よりも上位に生成される Spec(Agr-DO) が指定される)。これは、(19b) によって例証される。

(19) a.¿[A cuáles de ellos]_i sabes quién_j no les_i dio t_j t_i una buena recomendación? (Suñer 1992: (40c))

'Which of them do you know who didn't give them a good recommendation?'

b.¿[Qué libro]_i no sabes quién_j lo_i compró t_j t_i? (Contreras 1992: (11b))

'Which book don't you know who bought it?'

3. ルーマニア語の多重疑問文 (Non-Echo Questions)

(20a-f) は、本稿の第 2 節において検討したスペイン語用例の埋め込み節の構造である。この構造と、ルーマニア語の多重疑問文の用例 (21a-f) は完全に対応する。優位条件に関するスペイン語用例 (16) と異なり、ルーマニア語の対応用例における欠陥 [wh] 要素は、その移動先で発音される。主語 Wh 要素 (*cine* 'who') と DO Wh 要素 (*ce* 'what') が関与する用例 (21a, b) では、その始発点がより上位に指定される主語 Wh 要素が欠陥 [wh] 要素として機能する派生が適格と判断される。D-Linked DO Wh 要素 (*pe care* 'which one') と主語 Wh 要素 (*cine* 'who') が共起する場合、その始発点として *v* よりも上位の Spec(Agr-DO) が指定される D-Linked Wh 要素が欠陥 [wh] 要素として機能する派生が適格と予測される (この予測は、(21c) によって例証される)。*v* よりも上位である Spec(Agr-IO) が IO Wh 要素 (*cui* 'to whom') の始発点となるため、(21d, f) が適格と予測される ((21e) は生成不能)。

(20) a. [_{CP} **quién**]_i [_{CP} [**qué película**]_j] [_{TP} dirigió . . . t_j t_i en el cincuenta y uno]] (←(2a))

b.*[_{CP} [**qué película**]_i] [_{CP} **quién**]_j [_{TP} dirigió . . . t_j t_i en el cincuenta y uno]] (←(2b))

c. [_{CP} [**qué libro**]_i] [_{CP} **quién**]_j [_{TP} lo_i compró t_j t_i]] (←(19b))

d. [_{CP} [**a quién**]_i] [_{CP} **qué**]_j [_{TP} le_i regalaron t_j t_i]] (←(3a))

e.*[_{CP} **qué**]_i [_{CP} [**a quién**]_j] [_{TP} le_i regalaron t_j t_i]] (←(3b))

f. [_{CP} [**a cuáles de ellos**]_i] [_{CP} [**quién**]_j] [_{TP} no les_i dio t_j t_i una buena recomendación]] (←(19a))

(21) (Comorovski 1996: p.2, (1a); p.3, (2b); p.3, (2a); p.125, (71c); p.120, (64b); p.124, (71a))

a. **Cine**_i **ce**_j (crezi că) t_i a văzut t_j?

who what (you-think that) has seen 'Who (do you think) saw what?'

b.***Ce**_i **cine**_j t_i a văzut t_j?

c. [**Pe care**]_i **cine**_j t_i l-a văzut t_j?

which one who CL(it)-has seen? 'Which one was seen by whom?'

- d. **Cui** **ce** **i-ai** **sugerat** **ț** **ț**?
to whom what CL(to him)-you-have suggested 'To whom did you suggest what?'
- e. ***Ce** **cui** **i-ai** **dat** **ț** **ț** **ț**?
what to whom CL(to him)-you have given 'What did you give to whom?'
- f. **Cui** **cine** **ț** **i-a** **răspuns** **ț**?
to whom who CL(to him)-has answered 'Who answered to whom?'

DO Wh 要素 (*ce* 'what') と付加語 Wh 要素 (*unde* 'where', *cînd* 'when') の始発点 (この場合, 生成位置) が共に VP 内部であると考えた場合, DBS は適用されない。これにより, (22a-c) のすべてが不適格と予測されることになる。これに対して, DO D-Linked Wh 要素 (*pe care* 'which one') の始発点として Spec(Agr-DO) が指定されるため, (22d-e) は適格と予測される。

- (22) a. ***Ce** **unde** **ai** **pus** **ț** **ț**? (Comorovski 1996: p.120, (64c))
what where you-have put 'What did you put where?'
- b. ***Unde** **ce** **ai** **pus** **ț** **ț**? (Giurgea Ion: personal communication (2005.4.1))
- c. ***Cînd** **ce** **ai** **cumpărat** **ț** **ț**? (Giurgea Ion: personal communication (2005.4.1))
when what you-have bought 'What did you buy when?'
- d. [**Pe care**]: **unde** **i-ai** **pus** **ț** **ț**? (Comorovski 1996: p.121, (65c))
which one where CL(to him)-you-have put 'Which one did you put where?'
- e. [**Pe care**]: **cînd** **i-ai** **cumpărat** **ț** **ț**? (Giurgea Ion: personal communication (2005.4.1))
which one when CL(to him)-you-have bought 'Which one did you buy when?'

4. 結び

本稿において, スペイン語の Wh 島の事象と優位条件だけでなく, ルーマニア語の多重疑問文もまた同じ欠陥バランス戦略 (DBS) によって説明可能であることが示された。しかしながら, 前置詞 (*despre* 'about', *de* 'of') で導入される Wh 要素が生起する用例は, 本稿の仮説群に対して問題を引き起こすように見える。適格である (23c) の連続 [*despre cine+ce*] から判断すれば, 前置詞 Wh 要素 (*despre cine*) の始発点 (生成位置) は, DO Wh 要素 (*ce*) のそれよりも上位に指定される。これにより, (23a) と (23d) の非文性が説明される。(23b) は, 適格と予測される (問題点)。(21f) と (24a) の適格性は, 生成位置 (Spec(v)) と Spec(T) が主語 Wh 要素の始発点と指定されることを示す。問題となっている前置詞 Wh 要素は, vP と TP の間にある最大投射内部に生成されると考える (当該位置がその始発点となる)。(24d) と (24f) が適格と予測されることになる (問題点)。(24d) と (24f) に対応して D-Linked 前置詞 Wh 要素が生起する (24c) と (24g) は適格と予測される。

- (23) a. ***Ce** **despre cine** **ți-a** **vorbit**?
what about whom CL(to you)-has told
- b. ***Despre cine** **ce** **ți-a** **vorbit**? 'What did he tell you about whom?'
- c. **Cine** **despre cine** **ce** **ți-a** **povestit**? (Comorovski 1996: p.122, (69a))
who about whom what CL(to you)-has told 'Who said what to you?'
- d. ***Cine** **ce** **despre cine** **ți-a** **povestit**? (Comorovski 1996: p.122, (69b))

'Who told you what about whom?'

(24) (Comorovski 1996: p.122, (68a); p.99, (31a); p.99, (31b); p.99, (31c); p.2, (1b); p.2, (3b); p.3, (3a))

a. Cine cui ce i-a spus?

who to whom what CL(to him)-has said 'Who said what to whom?'

b. Cine de care s-a plîns?

who of which CL(himself)-has complained

c. De care cine s-a plîns?

d.*De ce/De cine cine s-a plîns? 'Who complained of what/of whom?'

e. Cine [despre ce] mi-a povestit?

who about what CL(to me)-has told 'Who told me about what?'

f.*[Despre ce] cine t ți-a vorbit?

g. [Despre care] cine ți-a vorbit? 'Who told you about what/which one?'

これらの問題は、Non-D-Linked 前置詞 Wh 要素が以下の貢献条件 (Contribution Condition) を想定することにより説明されるであろう。これは、欠陥 [wh] 要素として機能するある種の Wh 要素が、その先端部が他の異なる Wh 要素の始発点と指定される上位フェイズの DB の解消 (つまり、この上位フェイズのバランスの確保) に貢献することを要求するものである。

(25) Contribution Condition (CC) for multiple non-echo questions:

Some wh-phrases which function as defective [wh] elements have to contribute to the cancellation of Defective Balance (DB) of an upper phase (XP) whose edge position is designated as another wh's starting point.

欠陥 [wh] 要素として機能する Non-D-Linked 前置詞 Wh 要素の始発点が最上位と指定される (23b) と (24d, f) は、この貢献条件 (CC) によって排除されることになる。前置詞 Wh 要素 (*despre cine*) よりも上位のフェイズ (TP) 内部がその始発点と指定される主語 Wh 要素 (*cine*) が生起する (23c) は、CC によって排除されることはない (当該用例は、適格と予測される)。(26) のスペイン語用例は、指示的な付加語 (*dónde* 'where', *cuándo* 'when') の中の *dónde* もまた、項要素に加えて、欠陥 [wh] 要素として機能することを示す。(26a) の *dónde* の始発点が *qué* 'what' のそれよりも上位フェイズにあるので、当該用例は適格と予測される。Wh 要素が共に V (*puso* 'put') に下位範疇化されことにより VP 内部に生成されることになる (26b) は、不適格と予測される。³⁾

(26) (Aoun 1986: p.126, (31); P.126, (30); p.142, fn.11)

a.¿Dónde te preguntas qué compró Juan? 'Where do you wonder what John bought?'

b.*¿Dónde te preguntas qué puso Juan? 'Where do you wonder what John put?'

c.¿Cuándo te preguntas [a quién] mató Juan? 'When do you wonder whom John killed?'

註

*) 本稿は、日本ロマンス語学会第 43 回大会 (大阪女子短期大学 2005 年 5 月 22 日) における口頭発表の一部を拡張したものである。

1) ある派生が違反不可能である制約 (FC, PIC 等と後述する句バランス (Phrase Balance)) を満たす

唯一の方法である場合に限り、当該派生において最終手段 (LR) 違反が許容されると想定される (Müller 2004: p.298)。

- 2) 純正 [wh] 素性を付与された要素の移動が欠陥 [wh] 素性を付与された要素のそれに先行すると想定する。2つの Wh 要素が生起する (ia) において、派生が XP フェイズに到達した段階で XP フェイズ内部に生成された欠陥 [wh] 要素が当該フェイズの先端部に生成されるか、あるいは先端部に移動すると考える (X' に付加した位置に生成された欠陥 [wh] 要素が Spec(X) へ移動すると考える。つまり、純正 [wh] 素性を付与された Wh₂ は、XP に左方付加した位置を經由して Spec(C) へ移動する。次いで、Wh₁ がその先端部から CP に左方付加した位置へ移動する。これにより、CPフェイズの先端部における Wh 要素の相対語順 [Wh₁+Wh₂] が確保される。

- (i) a. [CP ... [XP ... Wh₁ ... [YP... Wh₂ ...]]]
b. [CP ... [XP... Wh₁ ... [YP... Wh₂ ... [ZP...Wh₃ ...]]]]

3つの Wh 要素が生起する (ib) において、Wh₁ と Wh₂ が欠陥 Wh 要素となる。XPフェイズにおける相対語順は、[Wh₂+Wh₃+Wh₁] となる。欠陥 [wh] 要素の左方付加移動がこの相対語順から生成された順番 [Wh₂→Wh₁] に固定されると考える。最終の CP フェイズにおいて、純正 [wh] 要素 (Wh₃) が Spec(C) へ移動し、欠陥 [wh] 要素が [Wh₂ →Wh₁] の順で CP に左方付加した位置へ移動する。これにより、[Wh₁+Wh₂+Wh₃] の相対語順が形成されることになる。

- 3) Comorovski (1996: p.58) の用例からも判明するように、CC は多重問い返し疑問文 (Multiple Echo Question) では適用されないと考えられる。(26c) については、稿を改めて検討することにする。

参考文献

- Aoun, Joseph (1986) *Generalized Binding: The Syntax of Logical Form of Wh-Interrogatives*, Foris, Dordrecht.
- Chomsky, Noam (2000) "Minimalist Inquiries: The Framework," *Step by Step*, ed. by Roger Martin, David Michaels, and Juan Uriagereka, MIT Press, Cambridge, MA.
- Chomsky, Noam (2001) "Derivations by Phase," *Ken Hale: A Life in Language*, ed. by Michael Kenstowicz, MIT Press, Cambridge, MA.
- Comorovski, Ileana (1996) *Interrogative Phrases and the Syntax-Semantics Interface*, Kluwer Academic Publishers, Dordrecht/Boston/London.
- Contreras, Heles (1992) "On Resumptive Pronouns," *Current Studies in Spanish Linguistics*, ed. by Héctor Campos and Fernando Martínez-Gil, Georgetown University Press, Washington, D.C.
- Jaeggli, Oswaldo (1982) *Topics in Romance Syntax*, Foris, Dordrecht.
- Müller, Gereon (2004) "Phrase Impenetrability and Wh-Intervention," *Minimality Effects in Syntax*, ed. by Arthur Stepanov, Gisbert Fanselow, and Ralf Vogel, Mouton de Gruyter, Berlin/New York.
- Suñer, Margarita (1992) "Indirect Questions and the Structure of CP: Some Consequences," *Current Studies in Spanish Linguistics*, ed. by Héctor Campos and Fernando Martínez-Gil, Georgetown University Press, Washington, D.C.
- Torrego, Esther (1984) "On Inversion in Spanish and Some of Its Effects," *Linguistic Inquiry* 15, 103-129.